

5 月 16-17 日に [日本金融学会 2026 年度春季大会](#) が朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで開催された。筆者は 2 日目のランチセッションで講演を行う機会を頂戴した。「生成 AI による研究活動のリストラクチャリング：デモによる紹介」と題した講演を学会員の方々に聴講頂いたほか、スライド資料の共有リクエストも頂戴した。

本稿では、講演内容の構成と中身をごく簡単に紹介し、[スライド資料を提供](#)する。

講演の前半は、本シリーズその 1 と 2 で紹介したアプリケーションサービスの活用事例である。筆者が自分のリサーチでどのように活用しているかを、デモを踏まえながら紹介した。後半は、AI エージェントや Skills など最新技術を研究活動に応用した事例である（AI 分野のイノベーションは高速ゆえ陳腐化も速く、最新と言えるのは高々四半期程度である）。本シリーズのその 2 までで扱っていない新規トピックは以下の 4 つである。



- VS code + GitHub Copilot/Claude Code/Codex による計量モデルの自動実装
- Obsidian + Claude Code による研究テーマ別専門 wiki 作成と更新
- Claude Code CLI で AI エージェントを活用し、実証分析の再現性検証を完全自動化
- Claude Code + 公開 Skills によるジャーナル寄稿前の AI 査読

上記事例の詳細については今後のシリーズで解説していく。当研究所の[難波レポート](#)で紹介された「AI による人的資本のポータブル化」が研究分野においても進展していることが判る。

なお、様々な AI アプリケーションサービスや技術、用例を紹介しているが、特定サービスを推奨するものではなく、また、利用にかかわる如何なる責任も一切負わない点を断っておく。とくに、AI エージェント系のサービスは使用する PC のファイル構造を書き換えるほか、読み取りや情報の外部送信も行うものであるため、情報セキュリティ等の観点から十分な配慮が必要である。スライド資料でも注意すべきポイントの一部を解説している。